第6学年 道徳科学習指導案

指導者 京都市立伏見南浜小学校 東村誓太

1. 日時　令和8年 11月13日（金） 第5校時（13:10～13:55）
2. 学年・組　第6学年 2組（32名）
3. 主題名　「いじめを断ち切る正義」 公正、公平、社会正義 C－（13）
4. 教材名　「 わたしのせいじゃない？ 」（「生きる力2」日本文教出版）

5. 主題設定・教材について

（1） ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目 C－（13）公正、公平、社会正義 に関わるものである。

高学年の児童にとって、公正・公平に接することや、正義の実現に努めることは、単に「よいことをする」「悪いことを注意する」という単純な行動だけでは捉えにくい面がある。特に、いじめや仲間外れのような場面では、「よくないことだ」と分かっていても、自分が注意することで立場が悪くなるのではないか、周りからどう思われるのかという不安から、行動に移せないことがある。しかし、正義の実現とは、必ずしも一人で相手を止めることだけではない。困っている人に寄り添うこと、周りの友だちに声をかけること、大人に相談すること、自分にできる関わり方を考え続けることも、いじめを許さない態度につながる。

本時では、いじめを直接行った人だけでなく、見ているだけの人の心にも目を向け、「わたしのせいじゃない」と考えてしまう心を乗り越えることが、いじめを断ち切る正義につながることに気付き、差別や偏見を許さず、公正・公平な態度で人と関わろうとする心情を育てたい。

（2） 教材について

本学級の児童は、友だちと協力し、助け合うことができる姿が見られる。しかし、友だち同士のトラブル、言葉の行き違いがあったときに、よくないことだと分かっていても、「誰かが言ってくれるだろう」「自分には関係ない」と考え、行動に移せない場面もある。

そこで、本時では、いじめに関わる様々な立場の気持ちや考えについて考えることを通して、いじめを他人事として捉えず、「わたしのせいじゃない」と考えてしまう心を乗り越え、いじめを断ち切ろうとする力を育てたい。

また、自己調整力を育てるために、友だちとの話し合いの中で自分の意見を整理し、他者の意見を取り入れながら、自分の考えを見直したり付け加えたりする場面を展開前段で設定する。また、自己決定力を育てるために、友だちとの交流を通して多様な考えに触れ、その中から自分が大切にしたいことを考える場面を設定する。

6. 本時のねらい

「わたしのせいじゃない」と考え、いじめを傍観することも相手を傷つけることにつながると気付き、差別や偏見を許さず、公正・公平に向き合おうとする心情を育てる。

7. 本時の評価（評価方法）

「わたしのせいじゃない」と思う心について、友だちとの対話を通して自分の考えを見直し、いじめをなくすために大切にしたい気持ちや考え方を自分事として考えている。　（発言・グループ交流・ワークシート）

8.　　本時の展開

＜事前＞ ①教科書を読む。②アンケートの実施 「①~⑭の中で、クラスで考えたい4つを選ぶ」

	学習活動	○発問◎主発問 ・予想される児童の反応	●支援 ○留意点 資質能力
導入	1. 事前アンケート、めあての確認	○①~⑭の中で、正しい行動だと思ったのはありましたか。 ・すべて間違っている。 ・見ているだけってどうなんだろう。 **いじめをなくすために、大切にしたい気持ちや考え方はなんだろう。**	○アンケート結果をもとに人物を提示する。 ○「いじめは絶対にしない・させない」という共通認識を確認する。
展開前段	2. 教材を読み、場面を捉える。 3. 誰にどのように声をかけるかを考える。	○この子たちは、どんな気持ちで「わたしのせいじゃない」と言っているのだろう。 ・自分は直接いじめていないと思っている。 ・自分が責められたくない。 ・止めたかったけど、こわくて止められなかった。 ・自分には関係ないと思いたい。 ○いじめを止めるために、あなたなら板書の4人に、どのように声をかけるだろう。 ・かわいそうだよ、そんなことやめよう ・見ているだけじゃなくて、一緒に止めよう	○「悪い子」と決めつけず、弱さやこわさ、迷い、責任から逃れたい気持ちは、誰の心にもあるということにふれる。 ○直接止めることだけを正解とせず、寄り添う、相談する、助けを求めるなど、多様な関わり方を認める。 ●ふき出しにかけたい言葉を書くことで、具体的な言葉で表現することができるようにする。 **自己調整力**
展開後段	4. 大切にしたい気持ちや考え方について考え、話し合う。	◎いじめをなくすために、自分はどんな気持ちや考え方を大切にしたいだろう。 ・「自分には関係ない」と思わないこと。 ・見ているだけでも相手を傷つけることがあると考えること。 ・だめだと思った気持ちをごまかさないこと。 ・いじめられている人の気持ちを考えること。 ・一人でできないときは、誰かに助けてもらえばよいと考えること。 ・「わたしのせいじゃない」で終わらせないこと。	○「わたしのせいじゃないでいいの?それでいじめはなくなる?」と問い返す。 ●「見ている立場」になったときを想像し、自分事として考えることができるようにする。 ●友だちの考えを聞く場を設けることで、自分が大切にしたい考えを深めることができるようにする。 **自己決定力**
終末	5. いじめに関する動画を見る。	みんなが一人ひとり、相手の気持ちを考えることでいじめをなくすことができる。	○いじめを断ち切るために必要なことを考えるとともに、悩んだ場合は周りの大人に相談するよう伝える。
板書計画			